

就労支援事業計画

● 事業目標

- 1、メンバーの誰もが、元気になる場を目指す（「安心」「つながり」「自信」「やりがい」）
- 2、メンバーと共に歩み、喜びを分かち合う

● 事業計画

- 1、【安心】：「気持ち良い挨拶」、「思いやりの声掛けと寄り添い」を心掛け実践する。
【つながり】：「メンバー同士の繋がり」を心掛け、様々な場面で繋ぐ支援を意識する。
【自信】：「必要とされている」、「役立っている」と感じられる関わりを行う。
【やりがい】：「利用者の強み」を見つけ、それを活かせる場面を考え、作り出す。
- 2、・メンバーができる部分は、どんどんお願いし、共に支え合う形を作る。
・外部研修受講、内部勉強会を行い、支援に還元する。（メンバーの喜びがスタッフの喜びとなるよう）
・仕事内容ごとに担当スタッフを決める。メンバーで検品や指導ができるリーダーの育成を行う。

つばめ工房 原作業所 通所者数 平均/目標

(人/日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
2018年度 通所平均	14.5	13.6	14.6	14.0	15.8	16.9	14.9	15.6	15.3	14.3	14.5	15.0	14.9	179.0
2019年度 通所平均目標	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.5	15.5	15.5	15.5	15.5	15.5	15.3	183.0

授産への取り組み

● 授産事業内容

自主製品…シフォンケーキ、ジャム、クッキー、押花作品の製造と販売

下請作業…グリーンコープチラシ(帳合)、ペロル作業、行楽用品袋詰め、公民館清掃、市政便り配布、

● 活動目標

- ・自主製品拡大、下請作業スリム化。【工賃アップ、個別支援充実の為】
- ・働き方の違いを幅広く受けれる体制作りと、それに応じた工賃設定。【メンバーの不公平感解消の為】
- ・地元で「シフォンケーキ販売店」としての認知を広める。【地域との繋がり、売上アップの為】
- ・自主製品売上アップの方策は、メンバーと共に考え実行する。【メンバーがやりがいや誇りを持てる為】

● 課題

- ・繁忙期（9～12月）はスタッフが作業に追われることが課題。→メンバーができる工程を増やす。
- ・仕事の種類が増え、スタッフの担当場所が分散し、負担が増えたことが課題。→仕事内容の整理。
- ・小型オーブン1台の為、シフォンケーキが1日に10ホールしか焼けないのが課題。→設備投資。

その他

● 実習の受入

大学・専門学校から依頼があれば可能な限り受入れる予定。

● 職員研修、スタッフ会議

支援力向上やキャリアアップに繋がる研修を受けられるようにする。

スタッフ会議は毎月第1、第3水曜日に行う。

支援力向上の為の内部勉強会を適宜行う。



H31年度 職員体制

常勤	非常勤	常勤換算
3	3	5.0

就労支援事業計画

● 事業目標と計画

- ・利用者への支援強化：障がい特性、症状に合わせた対応→通所ペースの向上
- ・支援体制の充実：職員体制の見直し、職場内・外研修受講による専門的知識の習得、見通しを持った行動
- ・就労支援体制の促進：就労に向けたステップアップ訓練の実施、就労アセスメント等の活用
- ・各機関との連携：早期の相談、会議の開催、本人の支援方針の情報共有
- ・地域、館内連携：舞鶴地区での行事参加、あいれふ館内でのイベント協賛および協力体制の強化

喫茶・レストラン オアシス 通所者数 平均/目標

(人/日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
2018年度 通所平均	10.5	10.6	10.7	9.2	8.4	8.3	9.3	8.5	8.5	8.2	8.7	9.0	9.2	109.9
2019年度 通所平均目標	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	126.0

授産事業計画

● 事業目標と計画

【喫茶】

- ・接客対応、スキルの向上：接客マナー訓練の実施、業務内容の見直し(細分化)
- ・メニューの見直し：消費増税による価格および提供内容の改定
- ・販路開拓の実施：ポスティングによる認知度向上、店舗情報の積極的な発信
- ・利用者主体の店舗作り：店舗内やメニューに関する主体的展開
- ・利用者訓練の強化：館内との連携による取り組みの導入

【軽作業】

- ・訓練機会の提供：能力や体調に合わせた取り組み、利用意識の向上
- ・定期的な入出荷：期日厳守の的確な取り組みの充実、安定的な収入源の確保
- ・作業バランスの見直し：複数作業の進行状況の確認・見極め

【受付～珈琲Slowth～】

- ・人員体制の充実：職員、利用者の人員確保と育成
- ・認知度の強化：店舗情報の積極的な発信
- ・利用者訓練の強化：主体性を持った取り組みの導入
- ・新たな使用方法の模索：珈琲以外の商品の提供の検討



その他

● 実習の受け入れ予定

- ・筑紫女学園大学、麻生医療福祉専門学校 など

● 職員研修、スタッフ会議

- | | |
|---------------------|--------------------|
| ・スタッフ会議・定例会 | ・あいれふ定例会 |
| ・就労支援連絡会 | ・ちゅうちゅうネット研修会 |
| ・福岡市精神保健福祉協議会 | ・福岡県精神保健福祉会連合会 |
| ・福岡市精神保健福祉センター運営協議会 | ・就労支援事業所研修会 |
| ・食品衛生責任者(管理者)研修 | ・コーチング研修 |
| ・発達障害研修 | ・感染症予防研修 |
| ・業務目標設定・管理・達成研修 | ・精神保健福祉従事者研修 |
| ・工賃向上研修 | ・あいれふ(保護会館)防災・消防訓練 |
| | ・筑紫女学園大学実習懇談会 |

● その他行事、イベント

- | | |
|------------------|------------------|
| ・舞鶴地区行事(夏祭り、運動会) | ・合同スポーツ大会 |
| ・健康フェア(協賛) | ・市民糖尿病教室(医師会コラボ) |
| ・みんなの集い/ハートメディア | ・花見 |
| ・初詣 | ・クリスマス会 |
| ・暑気払い | |

H31年度 職員体制

常勤	非常勤	常勤換算
4.0	1.0	4.6

就労支援事業計画

● 事業目標

- 1.利用者と職員が本来の自分を発揮し、いきいきと過ごせる自由な雰囲気のある場を作る。
- 2.利用者全員について十分目を行き届かせ、それぞれの事情に沿った個別の支援を強化する。
- 3.作業工賃のアップを目指す。最低レベル工賃からの脱却を図る。
- 4.職員の支援技術の向上。

● 事業計画

- 1.多機能事業所として、31年度7月生活訓練事業の再開。
- 2.請負作業ではなく、着実に売り上げを伸ばすことのできる製品(食品等)の開発に向けての検討・準備。
足掛かりとして、まずバザー等での食品製造販売を試みる。(食品製造のためには設備が第一の課題)
- 3.自主製品の手芸作品の充実、生産力アップ。新製品の開発。販売の場の拡大。
- 4.利用者の作業に対する自主性、積極性を高める。
- 5.利用者のステップアップへの支援を強化。将来の希望に合わせて、ともに相談、検討、開拓を行う。

ピアつばめB 通所者数 平均/目標

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
2018年度 通所平均	15.7	15.5	16.7	15.9	15.0	16.0	16.0	16.0	16.2	15.1	15.0	15.0	15.7	188.1
2019年度 通所平均目標	16.0	16.0	16.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.5	174.0

授産への取り組み

● 活動目標

- 1.自主製品制作と請負作業を組み合わせで行う。
一日に複数の種類の作業を行い、利用者が当日の体調、能力によって作業を選べるようにする。
- 2.自主製品販売の拡大をめざして、現在の手芸製品の種類を増やし、生産力も上げていく。
消費者にとって魅力的な製品を開発、製造し、丁寧な作品作りに努める。
- 3.請負作業の量が増加しているため、利用者の作業能力の向上を目指す。

● 課題

作業の量が増え、常時締切にも追われていて、個別対応の時間がとりづらくなっている。
個別の面談をまめにしてニーズを探り、支援を行き届かせたい。

その他

● 実習の受入

精神保健福祉士実習指導者1名在籍

H30年度は、特別支援学校福岡高等学園より1名受け入れ。H31年度も希望があれば受け入れ予定。

● 職員研修

サービス管理責任者研修
相談支援専門員初任者研修
ストレスマネジメント研修
キャリアパス対応生涯研修
食品衛生管理者研修
その他必要に応じて受講

● 行事

日帰り旅行（現在案：広島）
お花見、カラオケ、クリスマス忘年会、焼き肉会
紅葉狩り、ボーリング、みんなの集い、合同スポーツ
調理実習等



H30 初詣 紅葉八幡にて

H31年度 職員体制

常勤	非常勤	常勤換算
3	2	4.4

自立訓練（生活訓練）事業計画

● 事業目標

1. 障がいのある方で、就労、福祉事業所への通所が困難な方、退院直後の方、居場所を求めている方、生活の楽しみを見つけない方等を対象とする。
2. 自立し、安心して、楽しく日常生活が送れることを目的として、訓練を行う。
3. 利用者の自尊心の回復と生活上の目標の設定を支援する。
4. それぞれの個別支援計画に基づき、一人一人の状況に応じた個別の支援に力を入れる。

● 事業計画

1. 既存のB型事業所との多機能事業所として、31年度7月に再開の予定。 定員6名。
2. 日常生活を送る上で必要な家事訓練、コミュニケーション訓練、作業訓練、社会生活のための外出訓練等を柱として、プログラムを行う。
3. 生活の楽しみ方、生きがいづくりのヒントを提供する。そのためのレクリエーション的プログラム及びカルチャータッププログラムの実施。
4. 色々な経験を提供し、生活に対する前向きな目標を持ってもらうための訓練内容を常に検討していく。
5. 個人個人に身近によりそい、適切で丁寧な個別の支援を行う。
6. スタッフの人員配置に余裕ができてきたら、訪問支援も開始したい。

ピアつばめ生活 通所者数 平均/目標

(人/日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
2018年度 通所平均	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2019年度 通所平均目標	0.0	0.0	0.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	54.0

訓練への取り組み

● 活動目標

1. 不安感を取り除き、自尊心の回復を図る。
2. 期限の2年間または3年間で、自立し、日常生活、地域生活が円滑に行えるようになることを目標とする。
3. ひとりで家事をこなし、生活が円滑にいくことを目的として、実生活に即した家事・社会訓練を行う。
4. 生活に楽しみや希望を持ってもらうことを目的として、趣味充実や健康回復のための訓練を行う。
5. プログラムの中に、音楽を取り入れ、音楽療法的効果も目指す。
6. 全体プログラムは、それぞれのペースと希望に合わせて各自選択し、無理強いはいしない。

その他

● 実習の受入

B型に準ずる

● 職員研修

B型に準ずる



H31年度 職員体制

常勤	非常勤	常勤換算
1	2	2.2

地域活動支援センター事業計画

● 事業目標

- ・地域で暮らす障がい者が、安心して過ごせる居場所作り、仲間と出会い交流をしたり、地域社会とつながる機会を持つことにより、地域で豊かな生活を送れるよう支援を行う。
- ・「人と人がつながり支え合う」ことを大切にし、利用者の孤独感を軽減し楽しみや役割を見出せるよう支援を行う。
- ・職員の成長のため、研修会などに積極的に参加する。

● 事業計画

- ・安心して過ごせる場の提供、様々な相談対応、食事提供、サークル活動、電話相談などを行う。
- ・利用者を常に温かく迎える。ひとりひとりの生活スタイルに合わせ、個別の相談にしっかり対応する。
- ・つなぐ支援を意識し利用者が様々な場面で役割を持ち、自尊心を回復できるよう心掛け支援する。
- ・つながりを地域住民へと広げていく為に、啓発活動やボランティアの育成も行う。

H30年度1日平均利用	H31年度1日平均利用	H30年度登録者数	H31年度登録者目標
31.8人	32人	145人	150人

Ⅰ 型事業への取り組み

● 目標・課題

- 1.個別支援の充実（全ての利用者が「ここに来て良かった」と思えるような人と場の提供）
- 2.サークル活動・イベントの充実（利用者の要望によるサークルの増設やイベントの提供）
- 3.他機関との連携強化（他機関との連携強化による適切な支援の提供）
- 4.地域住民への理解促進（地域住民との交流と障がいへの理解促進）
- 5.より手厚い支援のための事務作業の効率化（利用者とのかかわりをより重視するための事務作業の自動化）

● 具体的な内容

- 1.より良い支援が提供できるよう、研修やOJTを充実させ、人材育成の強化を図る。
- 2.現存のサークル活動を見直し、利用者の要望に沿ったサークルの増設やイベントの企画をする。
- 3.他機関との連携を強化し、支援が困難な利用者への適切な対応、支援が行えるようにする。
- 4.地域住民へボランティアなどを通じて交流を図り、障がいへの理解の促進に努める。
- 5.館内利用者の安穩に常に配慮し、関わりを重視した手厚い支援を行うために、事務作業はシステム化して時短を図る。

その他

● 実習の受入

平成31年度は、大学と専門学校から計6～8名の実習生を受け入れる予定。精神保健を学ぶ学生に、障がいについての理解を深めてもらいたいという思いと、職員も初心に帰り勉強になるという利点もあり、実習指導は大変ではあるが今後とも受け入れを行っていく。また、採用につながる可能性もあり、面接だけよりもより学生を見ることができるといふ利点がある。

● 職員研修、スタッフ会議

職員の資質向上、援助技術の充実をはかる為、それぞれの経験年数や立場、能力に応じた専門研修、キャリアパス研修等の受講を積極的にすすめる。また、他機関で行われている精神疾患についての研修や各種障がいの支援についての研修にも参加する。スタッフ会議は毎週月曜日に行う。

● 居住サポート事業

賃貸契約による一般住宅（公営住宅及び民間の賃貸住宅）への入居を希望しているが、保証人がいない等の理由により入居が困難な障がいのある方等に対して、入居に必要な調整等・家主等への相談・助言も含め支援を行い、障がいのある方等の地域生活支援を行う。

● 職場環境の改善

事務作業の自動化に伴って、業務分担や配置を見直し、業務の効率化を図る。
職場のレイアウトを工夫し、利用者が相談しやすく、またスタッフも相談内容により集中して向き合えるように検討する。
書類の整理整頓を心がけ、職場の美化に努める。パソコン内ファイルを整理し、フォーマットの統一化を進める。
スタッフのメンタルに配慮し、それぞれが発言しやすく、実力や個性を十分発揮できるような環境づくりに努める。

H31年度職員体制	常勤	非常勤	常勤換算
	2	5	4.8

西区第1障がい者基幹相談支援センター

地域生活支援拠点等の整備事業計画

● 事業目標と計画

1 区ごとのネットワークの構築

- ・「西サポネット」実行委員会の運営
- ・「西サポネット」研修の開催
- ・サービス種別研修の実施

2 区内の相談支援事業所のネットワークの構築

- ・相談支援事業所『西区相談あつまろう会』の実施
- ・ケアマネ、相談支援専門員の連携の構築

3 区内の相談支援事業所に対する専門的な指導・助言・人材育成

- ・個別事業所に対する助言、同行
- ・勉強会の実施

4 地域福祉の基盤づくり

- ・民児協への参加
- ・区行政との連携強化
- ・地域包括支援センターとの連携
- ・社会福祉協議会CSWとの連携協議
- ・圏域会議への参加
- ・SSWとの連携強化

5 緊急時の対応についての取組

- ・緊急時受け入れ・対応拠点との連携
- ・地域資源の緊急時対応のネットワーク検討
- ・緊急時拠点事前登録の促進
- ・緊急時対応者リストの作成

指定特定相談支援事業計画

1 特定相談

- ・基幹対象者ケースの整理後の移管
- ・地域移行・地域定着の推進、拠点区の病院との連携
- ・相談支援専門員の育成
- ・計画作成、地域移行・地域定着、及び自立生活援助事業の独立採算の実施・検討

その他

● 職員研修

- ・区障がい者基幹相談支援センター相談支援専門員研修年度計画に基づき参加

● H31年度課題

- ・指定特定相談支援事業での独立採算への検討、実働
- ・基幹対応ケースへの自立生活援助事業の適応の可否を検討

H31年度職員体制	常勤	非常勤	常勤換算
	6	0	6.0